

平成24年度第3回政策会議

日時 平成24年11月29日(木) 10:30~11:00
会場 市長会議室
参集者 工藤市長 中林副市長 片岡副市長 山本教育長 秋田企業局長
谷口企画部長 上戸総務部長 大竹財務部長

議 題 函館市中心市街地活性化基本計画(案)について

◎対 応 入江経済部参事1級, 阿部参事3級, 宿村主査, 井上主査

◆ 議題の趣旨 ◆

本市において、地域経済の発展に果たす役割が非常に大きい函館駅前・大門地区から本町・五稜郭・梁川地区を対象とした中心市街地の活性化について、平成27年度に予定されている北海道新幹線の開業も見据えながら、強力に推進していくため、新たな函館市中心市街地活性化基本計画の案を取りまとめたので、その内容について協議を行いました。

◆ 協議の結果 ◆

函館市中心市街地活性化基本計画(案)については、承認されました。

◆ おもな発言 ◆

■入江経済部参事1級

中心市街地活性化基本計画策定に係る経過だが、本年5月に基本計画(素案)についてパブリックコメントを実施し、8月に庁内の検討委員会(函館市中心市街地活性化基本計画検討委員会)で基本計画(原案)を決定した。

その後、法定協議会(函館市中心市街地活性化協議会)をはじめ、商業者を中心とした中心市街地活性化懇話会や商工会議所に原案を説明し、意見をいただくとともに、内閣府とも協議を進め、認定にあたってのアドバイスを受けている。本案には、それらの意見やアドバイスを反映させ、庁内の検討委員会で協議し、成案として決定した。

今後のスケジュールであるが、本日の政策会議で承認をいただければ、12月末に開催予定の法定協議会へ提出したい。そのうえで、法定協議会から法に基づく意見書の提出を受けた後、内閣府へ認定申請し、年度末の3月中に認定される予定となっている。

計画書について、本年9月に公表している原案の修正点を中心に説明したい。

まず、本市の中心市街地活性化基本計画においては、人口減少が進むなか、観光客を誘致し、回遊させるというスキームが重要であることから、観光の状況における観光資源の分布状況について、市内の主要観光資源のほか、広域圏の主要観光資源についても記載することとした。

また、来函観光客について、1泊の割合が減少し、2泊の割合が増加傾向にあるという特性を示すため、平成18年から平成22年までの旅行形態、市内

での宿泊日数の傾向を記載した。旅行形態では、函館市のみを目的とした割合が増加傾向にあり、宿泊日数では、全体としては1泊の割合が高いものの、2泊の割合が増加傾向にあることがわかる。

次に、中心市街地における空き家の状況について、平成7年から平成22年における一戸建て、長屋建て、共同住宅に居住する世帯数が減少傾向により、空き家が増加傾向にあることを示した。

次に計画の基本的な方針として、基本コンセプトは、市民生活と歴史・文化、観光が融合した回遊性の高いまちづくりとし、地区のテーマは、本町・五稜郭地区は若い人たちが長時間滞在できる環境づくり、函館駅前・大門地区は子どもや高齢者が楽しめ、家族で長時間滞在できる環境づくりとした。

次に計画認定に際して必要な数値目標の設定であるが、中心市街地の年間観光入込客数、歩行者通行量のほか、中心市街地内の回遊性向上をめざす指標として、中心市街地内における路面電車の乗降人員数を追加した。

次に具体的事業内容のなかで、国土交通省の交付金事業で和光ビルで整備する公共施設に関し、子育て世代活動支援プラザとはこだておもしろ館の2件の整備事業として別々に記載することとした。

次に商業の活性化策だが、中小企業融資制度の拡充として、現在、制度施行している新たに開業しようとする方等を融資対象としたチャレンジ資金について、中心市街地区域内を対象に融資利率を優遇する措置を講じた。

■工藤市長

今回の案に、駅前市有地や中心市街地トータルデザインのプロポーザル結果は反映されないのか。

■入江経済部参事1級

本申請までに最終決定されれば、追加することも可能だが、日程的には厳しいと考えている。間に合わない場合、本計画は、毎年、時点修正が可能なので、追加で登載していこうと考えている。

■山本教育長

JR五稜郭駅からの導線は、何か想定しているのか。

■入江経済部参事1級

JR五稜郭駅から導線は、基本的にバスとなる。今後、交通網の見直しなどが行われるなかで、交通アクセスの強化などが検討されると考えている。

■工藤市長

本案については、了承した。

法定協議会への提出、内閣府への認定申請を進めて欲しい。

■入江経済部参事1級

了解した。

今後、多少の文言修正はあると思うが、事務的にさせていただきたい。